

フォークリフトを起因物とする転倒の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	17～18	借りた足場材を土場まで2tトラックで返却に行ったところ、足場材を入れる籠の前にフォークリフトが置いてあったので、退かそうと運転したところ転倒しフォークリフトの下敷きとなった。	30209	10～29
1999	3	13～14	500kgトランスバック2個をフォークリフトで吊上げトラックに積込み、フォークリフトが後退したのでトラックに乗り込み前進させたが、「バタン」という音がしたのでトラックから降りてみると、フォークリフトが倒れてオペレーターが下敷きになっていた。	11709	10～29
1999	6	1～2	1. 5トンのバッテリーフォークリフトを運転して工場構内でゴムを巻きつけたボビン3本を運搬しているときにフォークリフトが転倒し、ヘッドガードに身体を挟まれた。	10806	300～
1999	8	9～10	菓子製造で使用する油を入れるコンテナ(129×100×105cm)を4段に積重ねる作業で、4段目のコンテナをフォークリフトで吊っている時にバランスを崩したため、フォークリフトが左側に横転し、その運転者が下敷きになった。	10104	10～29
1999	11	15～16	建造中のフェリー船(6000トン)の船内において、フォークリフト(最大荷重3トン)を運転して勾配10度、距離40メートルのところを上がっていたところ、突然エンジンが止まったため、フォークリフトが下がりはじめ、船体の内壁に激突して横転したときに胸部を打撲した。	11501	100～299
1999	12	9～10	土場に積まれた丸太材をフォークリフトでトラックの荷台に積み込む作業中、フォークリフトが転倒し、ヘッドガードの支柱の下敷きとなった。	10401	1～9

2000	4	20 ～ 21	トランスバグに詰められた飼料500kgをトレーラーから10tトラックに フォークリフトで積みかえる作業で、2本のフォークにそれぞれ飼料を吊り下 げて右ハンドルを切ったときに外側に横転し頭部を強打した。	40301	～ 29
2000	11	13 ～ 14	フォークリフトを倉庫に戻すため農家の敷地内の未舗装の道路上を走行中、 左側の法面にフォークリフトが乗り上げて右側に横転し、路上に投げ出され たところにフォークリフトが倒れてきたため、道路面と機体との間に挟まれ た。	60101	1～ 9
2000	5	14 ～ 15	フォークリフトによるパレットの整理作業を終えて倉庫上屋の定位置に フォークリフトを格納しようとして右に急ハンドルを切ったときに、左へフォー クリフトが横転して投げ出され、その下敷きになった。	80401	～ 29
2000	2	0 ～ 1	溶解用階上原材料置場で、フォークリフトによる荷降ろし作業が終了してス ロープを下り終える手前でリフトが転倒し、運転席から投げ出されたところ にリフトが倒れてきて屋根部分との間に胸部を挟まれた。	11002	～ 299
2000	7	10 ～ 11	ドラムクランプを装着したフォークリフトで、空のドラム缶をトラックの荷 台から空缶置場に移動、整理する作業中に、フォークリフトの操作を誤って リフトとともに転倒しリフトの屋根と地面との間に挟まれた。	50101	～ 29
2000	8	0 ～ 1	トラックに冷凍魚を積み込むためフォークリフトに乗り市道を走行中、交差 点で右折したときにフォークリフトが左側に横転し、その下敷きとなった。	40301	30 ～ 49
2000	11	14 ～ 15	資材置場等の土場へ行く途中の上り坂をフォークリフトで走行中、フォーク リフトが横転し下敷となった。	10401	1～ 9
2000	11	17 ～ 18	産業廃棄物処理センター内において、産業廃棄物(空缶等約40kg)の入った合 成繊維製の袋をフォークリフトのマストを4m67cm(マスト最上部までの高さ) 伸ばして前向きに運行していたときに、作業所入り口の扉のレール部分(レー ル下部までの高さ4m60cm)に接触したため、フォークリフトが左側に転倒 し、その下敷きになった。	150102	～ 49

2000	6	8 ～ 9	自ら搬送してきた鋼製の擁壁資材を15tトラックからフォークリフトで荷降ろしするため、後進しながら方向転換をしていたときに、ダンプ等の洗車時に出る泥をためる穴(長さ3.4m、幅2.5m、深さ0.7m)にフォークリフトが転落し、その下敷きになった。	40301	50 ～ 99
2001	1	15 ～ 16	フレキシブルコンテナに入れた麦ぬか(約500Kg)をフォークリフトを用いて、トラックに積み込み中に、フォークリフトが横転し、運転者が頭部をヘッドガードに挟まれた。	10109	30 ～ 49
2001	3	18 ～ 19	フォークリフト(最大荷重2.5t)で傾斜約8度の坂道をバックで下りている途中、右に旋回したときにフォークリフトの右側面が坂道の壁に当たり、その反動でフォークリフトが左側に倒れ運転席から投げ出されてフォークリフトの下敷きになった。	10909	10 ～ 29
2001	3	9 ～ 10	最大荷重950kgのフォークリフトで約270kgの荷を地上約2mの高さまで持ち上げ、トラックの荷台に積み込むため下り坂を後進していたところ、路面が複雑に傾斜していたためフォークリフトがバランスを崩して転倒し、運転者が運転席から投げ出されてヘッドガードの下敷きになった。	10309	10 ～ 29
2001	4	13 ～ 14	フォークリフトでトランスバック(500kg)に入った原料を吊り下げて運搬し、トランスバックを開けてサイロに投入後フォークリフトを後退させたところ、サイロ進入路の左側に逸脱して横転し下敷きになった。	11709	50 ～ 99
2001	5	9 ～ 10	フォークリフトを運転して鉄製の容器に爪を刺して廃棄物処理施設から出たごみの運搬が終わったのでフォークリフトを戻すため構内の傾斜地(勾配8度～18度程度)を直進してしていて、右にカーブして入庫しようとしたときにバランスを崩してフォークリフトが左側に横転し頭部をヘッドガードの縁に挟まれた。	150102	50 ～ 99
2001	6	7 ～ 8	12tトラックの荷台にあった電線くず等の入ったフレキシブルコンテナ9個(1個約1.5t)を最大荷重3tのフォークリフトで降ろす作業で、1個目のフレキシブルコンテナに爪をかけて吊り、フォークをバックさせそのまま右回転させたところ、フォークが右に横転したためフォークの運転者がヘッドガードと地面との間に頭部を挟まれた。	50202	1～ 9

2001	8	16 ～ 17	工場敷地内に置いてある金型をフォークリフトで第二駐車場に運んだのち第三工場に戻るため公道を走行中、帽子が飛んだのでそれを拾おうとして乗っていたサイドステップから飛び降りたとき、反動で転倒し頭を強打した。	11502	～ 299
2001	8	19 ～ 20	連休前の通常業務終了後に行われていた事業場主催の懇親行事の終了後、フォークリフトで後片付けに向かう途中の下り坂でフォークリフトが転倒し、下敷きになった。	11002	～ 49
2001	5	17 ～ 18	工事現場から出た型枠の残材をトラックからフォークリフトで荷卸しし、フォークリフトを駐車スペースに戻すため走行していたときに、フォークリフトが転倒して運転席から投げ出され、フォークリフトのヘッドガードを支える鉄枠とコンクリート地面との間に頭部をはさまれた。	30109	1～ 9
2002	1	13 ～ 14	最大荷重2.5tのフォークリフトで、事業場敷地内の伐採した木の切り株をつり上げた状態で走行中、路肩段差（約23cm）のところでフォークリフトが転倒し、フォークリフトと地面との間に挟まれた。	80109	1～ 9
2002	1	8 ～ 9	4.5tトラックでパレット3枚を運び、それを降ろすためフォークリフトでパレットを挟んで後退しようとしたところ、フォークリフトがバランスをくずし横転し運転者が下敷きになった。	80209	50 ～ 99
2002	2	16 ～ 17	家畜の飼料用牧草倉庫において、床面に積まれていた20個の牧草（質量約1t）を最大荷重3tのクランプフォークリフト（アタッチメントが伸縮する）に積みバックで走行中、フォークリフトが転倒してヘッドガードと床面との間に挟まれた。	170209	10 ～ 29
2002	10	8 ～ 9	廃材の入った袋をフォークリフトで原料倉庫に運び、空袋を原料倉庫脇の空袋置場に持って行くため地上から2.6mの高さに上げたフォークに空袋を掛けて走行中、同様に空袋をフォークに掛けて原料倉庫内から後進してきたフォークリフトの左側マストにフォークリフトの左側のフォークが接触して転倒し、地面とサイドガードとの間に腰部を挟まれた。	50101	50 ～ 99
2003	1	14 ～	旧牛舎に置かれていた餌を作るためのサイレージの缶（鉄製の箱、153cm×306cm×153cm）を別の場所に運ぶよう指示を受け、最大荷重	70101	30 ～

		15	3.5tのフォークリフトで旧牛舎に向かったが、旧牛舎前の道で横転しフォークリフトのヘッドガードに頭部をはさまれた。		49
2003	2	5 ～ 6	重機運送用の荷台傾斜式ローダー（トラック）に車両質量3880kgのフォークリフトを積込む作業中、一たん後向きに積み込んだのち、積直しのためにフォークリフトのハンドルを切り返したところ、機体が荷台を横滑りしながら転倒して運転席から投げ出され、ヘッドガードと地面との間に胸をはさまれた。	40301	10 ～ 29
2003	7	15 ～ 16	花火大会のために、園内通路の各個所に移動式クレーンおよび園内所有のフォークリフトで照明機を設置し、フォークリフトを園内の保管場所へ戻すため下り坂を走行していたときに、路肩に乗り上げたためフォークリフトが横転し下敷きとなった。	170209	1～ 9
2003	11	9 ～ 10	敷地に野積みされていた廃パレットを撤去する作業で、フォークリフトでトラックの荷台に積んでいたところ、地面が砂利敷きのためフォークのタイヤが潜って操作不能となった。これをトラックで牽引したときに、フォークが横転しフォークの運転者が地面とフォークとの間にはさまれた。	150102	1～ 9
2003	11	13 ～ 14	倉庫前に積まれていたパレット（一山約30枚）をフォークリフトで運び出そうとしたときに、右横のパレットに引っ掛けたため30枚の山からパレット7、8枚が落下し、1枚が顔面に当たった反動で後方に転倒し後頭部を地面に強打した。	40301	10 ～ 29
2004	8	15 ～ 16	法面（のりめん）吹付用生育基盤材（50L×50袋パレット積）をフォークリフトで現場に搬入していたところ、路面に置いていたコンパネを踏んだはずみでフォークリフトがバランスを崩し、斜面を10m滑落、横転し、車体のヘッドガードと路面との間に挟まれた。	30108	10 ～ 29
2004	9	20 ～ 21	製品（総重量約300kg）を仮置場から所定置場へフォークリフト（最大荷重1.5 t）を使用して運搬する作業中、砂地に右側車輪が脱輪した。そのため、友人に事業場のトラック（積載荷重2 t）にロープをかけて引っ張ってもらい、自らはフォークリフトの運転席に座って脱出を試みたところ、砂地から脱出したはずみでフォークリフトが車体左側に転倒し、被災者はヘッドガー	80109	10 ～ 29

			ドと地面の間に挟まれた。		
2004	9	15 ～ 16	フォークリフトで倉庫から坂道を下って行き、ほぼ坂を下りきったあたりで曲がろうとした際、フォークリフトが横転し投げ出された。	80109	1～ 9
2004	12	14 ～ 15	事業場構内の自動車保管場所でフォークリフトによる作業を終え、下り坂（勾配13度）をフォークリフトを運転して下っているときに、進行方向右側の土手に乗り上げバランスを崩しフォークリフトごと転倒した。	150102	1～ 9
2004	6	14 ～ 15	最大積載荷重3.5 tのフォークリフトを運転して、本社から約100m離れた同社資材置場へ移動中、同資材置場入口付近で右折した際にフォークリフトが転倒し、同フォークリフトのヘッドガードの下敷きになった。	170209	50 ～ 99
2004	12	13 ～ 14	フォークリフトのフォークを上げたまま、後方に急旋回して、フォークリフトが転倒した。その際、フォークリフトを運転していた被災者が、転倒したフォークリフトと地面に挟まれた。	10801	10 ～ 29
2004	8	11 ～ 12	クレーンアーム仕様のフォークリフトで飼料500kg入りフレコンバックをつり下げ、トラックまで前進で運搬していたところ、柱の基礎ブロックにフォークリフトが接触、横転した。	170209	50 ～ 99
2005	7	13 ～ 14	ブレーキが故障したフォークリフトを勾配16度の坂道でチェーンブロックとワイヤロープを用いて下ろす作業を行っていたところ、ワイヤロープが切断したため、フォークリフトが逸走・横転し、運転していた被災者が当該フォークリフトの下敷きとなった。	80209	1～ 9
2005	2	5 ～ 6	フォークリフトにより金属屑をトラックに積み込む作業を行っている最中、移動中のフォークリフトが横転し、フォークリフトを運転していた被災者がその下敷きとなった。	80109	1～ 9
2005	11	9 ～ 10	空荷のフォークリフトを置場に戻すため運転中、フォークを1.7mの高さに上げたまま前進で事業場外に出て、傾斜角10度の場所で右折しようとしたところ、フォークリフトが左側面を下にして横転し、当該フォークリフトの下敷きとなった。	80109	10 ～ 29

2005	9	21 ～ 22	工場構内の敷地内で、使用済の清掃用ゴム材料等を木製パレットに載せて、フォークリフトで前進で運搬していたところ、積荷の清掃用ゴム材料のロールのうち1本が落下し、フォークリフトの右前輪が乗り上げ左側に横転した際に、被災者が投げ出されてヘッドガード支柱と路面との間に挟まれた。	10806	300 ～
2005	8	14 ～ 15	工場の構内において、フォークリフトを運転中、当該フォークリフトが横転、ヘッドガードと地面との間に挟まれた。	10902	300 ～
2005	11	10 ～ 11	フォークリフトのアタッチメントを最高位置に上げたままバックしていたところ、当該フォークリフトが横転し、逃げようと飛び降りた被災者が挟まれた。	10203	10 ～ 29
2006	5	10 ～ 11	被災者は、家畜飼料（1袋：500kg）の出荷のため、フォークリフトでトレーラーへの積込み作業を行っていた（2本のツメに1袋ずつ、計2袋・1トン）。その際、荷を吊った状態でツメを高さ約4mまで上げ、その状態でハンドルを左に切りながらバックしたところ、バランスを崩し転倒、地面とフォークリフトの間に挟まれた。	40301	300 ～ 499
2006	8	13 ～ 14	石加工工場内で、フォークリフトの下敷きになっている被災者を同僚が発見した。	20201	1～ 9
2006	9	7 ～ 8	屋外において、フォークリフトを運転していたところ、当該フォークリフトが横転し、運転者がその下敷きとなった。	150102	10 ～ 29
2007	11	16 ～ 17	鉄製コンテナに積まれた選果前の玉ねぎ（重量約1.5t）をフォークリフト（最大荷重2.5t）を用いて事業場敷地内に積み上げる作業中、フォークリフトが横転して運転者が運転席から投げ出され、横転したフォークリフトと地面との間にはさまれて死亡した。作業場は、雨によるぬかるみが出来ていた。	80109	30 ～ 49
		10	モルタルダスト製品の運送を請負い、被災者ら3名が、フォークリフトを使用してトラックに当該製品を積み込む作業中、当該製品が入ったフレコン		10

2007	4	～	11	バッグ（重さ約1 t）を一方のフォークのみでマスト上限までつり上げ、走行していた。当該フォークリフト（最大荷重1.2 t）が横転したため、フォークリフトを運転していた被災者がその下敷きとなった。	40301	～	29
2008	5	～	16	被災者が丸鋸でバタ材の耳すり作業を行っていたところ、材料のバタ材がなくなつたため、フォークリフトを運転して脇にあるストックヤードからバタ材を運ぶ作業を行った。フォークにバタ材40～50本（250kg）を積み込み、バックで切り返した後に前進しようとして右にハンドルを切った際に、外側（左側）に横転し、運転していた被災者がフォークリフトと地面にはさまれた。	10401	～	29
2008	3	～	14	被災者はフォークリフト（最大荷重2.8t）を運転して工場で製造されたコンクリートブロックを製品置場に運搬して戻ってくる際、傾斜7度の上り勾配に出て右折しようとしたところフォークリフトが横転してフォークリフトのヘッドガードと道路面にはさまれて死亡した。	10901	～	29
2009	10	～	10	9 飼料運搬車のタンクに飼料を投入する作業中、運転していたフォークリフトが横転し、運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなった。	40301	～	49
2009	7	～	15	被災者が養鶏団地のビニルハウス増築工事現場で使用するセメントを当該団地内の資材置場までフォークリフトで取りに行き、当該工事現場に戻っている途中にフォークリフトが横転し下敷きになった。なお、資材置場から当該工事現場までの道路は下っており、また、横転した箇所は下りの緩やかなカーブで勾配は8度であった。	30201	1～	9
2009	8	～	14	最大荷重3.5tのフォークリフトを運転し、フレコンバッグに入れたゴミを搬送した被災者が、構内の道路上（道幅約6m、傾斜約6度）で方向転換のためにバックしたところ、フォークリフトの右側後輪が路肩に乗り上げるとともに、カウンターウエイトが路肩にぶつかってフォークリフトが転倒し、運転席から放り出された被災者はヘッドガード部分の下敷きとなった。	40301	1～	9
			10	ペットボトルリサイクルセンターの事業場内ヤードにおいて、事業場のトラックにて運搬してきたペットボトル・ベール（プレス品、重量約400kg）を、客先のフォークリフト（クランプ式）を運転して荷下ろしの作業を実施			10

2009	7	～ 11	していた。その際、フォークリフトに荷を積載し、マストを上げ、前進、右旋回操作中に左側へ転倒した。被災者（運転者）はフォークリフトヘッドガードフレームと地面にはさまれた。	40309	～ 29
2009	1	～ 14	畜産施設の敷地内において作業中の作業者が、アスファルトにより舗装され、勾配約4度で、積雪により埋もれた状態となっているスロープの路肩から脱輪し、転倒している最大荷重2.38tのフォークリフトに近づいたところ、当該フォークリフトのヘッドガードと地面との間にはさまった状態で倒れている被災者を発見した。その後被災者は病院へ搬送されたが死亡した。	70101	1～ 9
2010	5	～ 11	事業場構内のコンクリート舗装された下り坂（勾配約15度）の通路において、被災者の運転するフォークリフトが、前進走行で坂を下っていたところ、フォークリフトが操作の誤り（スピードの出し過ぎ、急ブレーキ、急ハンドル等）のため、横転した。被災者は横転したフォークリフトの下敷きになり死亡した。	70101	10 ～ 29
2010	8	17 ～ 18	事業場敷地内において、被災者がフォークリフトを空荷の状態でもって坂道を後進で下りていたところ、右後輪が坂道右側の土手に乗り上げフォークリフトごと横転した。その際に、被災者はフォークリフトのヘッドガードのフレームに胸部をはさまれ死亡した。	60101	1～ 9
2010	8	16 ～ 17	被災者は、夏季休暇前の工場内の排水溝内の清掃作業で出た堆積・固化したコンクリートのノコを入れてトンパック1袋をフォークリフトの右側フォークに片掛けで吊り下げて、構内の集積場に向かい走行していた。その途中の坂道を右カーブする際に、偏荷重となり車体バランスが崩れ、フォークリフトが右側に横転した。被災者は、運転席から投げ出されてヘッドガードと地面に身体を挟まれ、同日搬送先病院で死亡が確認された。	10901	1～ 9
2010	10	～ 14	フォークリフトを用いて粉をライスセンターから別棟の保管場所へ運搬し、保管場所からライスセンターへ戻る際、フォークリフトの右前輪タイヤが、運行経路途上にあった粉殻排出塔の基礎土台にのり上げ、バランスを崩し、当該フォークリフトが横転した。当該フォークリフトを運転していた被災者	170209	50 ～ 99

			が運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなり死亡した。		
2010	12	8 ～ 9	被災者は、事業場の敷地内にある製品置場において、トラックの荷台の紙製品（重量約1 t）を横持ち作業するため、フォークリフトを運転し、トラックの荷台の紙製品をクランプ（アタッチメント）で挟み、一旦左後方にバックした後、紙製品を挟んだ状態でリフト（上昇）させながら右旋回動作で前進していたところ、フォークリフトの安定度が失われて転倒し、ヘッドガードの支柱の下敷きとなり死亡したものの。	50101	10 ～ 29
2011	4	11 ～ 12	棚卸作業において廃車部品の重量を計量するため、フォークリフトのフォークにフレコン（約30キログラム）をつり下げ運搬し台貫で計量した。この時次に台貫を使用する業者が待機していたため、急ぎ荷を元の位置に戻すべく、後進し方向転換をしたとき、フォークリフトが転倒し運転していた被災者がその下敷きとなって死亡したものの。	11002	100 ～ 299
2011	6	9 ～ 10	構内において、転倒したフォークリフトのヘッドガードとコンクリートの地面の間に頸部を挟まれている被災者を同僚が発見したものの。フォークリフトは荷を積載していないが、走行したと思われる場所は南側に行くほど角度が大きくなる傾斜地であった。南側前輪が通過したと思われる場所は12度の傾斜地で凹凸があり、北側前輪が通過したと思われる場所は7度の傾斜地であった。	10901	10 ～ 29
2011	4	2 ～ 3	40 tトレーラの運転手である被災者はトレーラ荷台からフォークリフト（最大荷重2.8 t）を使用し荷物（原木約70本を束ねたもの）を降ろす作業を行っていたところ、突然トレーラが前方に動き出したため荷台の支柱にフォークリフトの爪が接触、横転した。フォークリフトを運転していた被災者が運転席から地面に投げ出され、地面と横転したフォークリフトのヘッドガードとの間に挟まれ受傷し、その後死亡した。（出張作業）	40301	1～ 9
2011	6	9 ～ 10	被災者が鉄製の空パレットを積み上げた荷をフォークリフト（最大積載荷重2.5 t）にてバック走行で運搬中、スロープのある仮設の荷台に右後輪を乗り上げ、フォークリフトが転倒した。フォークリフトが転倒した際、被災者が運転席から放り出され、その上にフォークリフトが倒れてき、はさまれ	80401	10 ～ 29

			たもの。		
2011	7	14 ～ 15	被災者が、バケットアタッチメントを装着したフォークリフトを運転し、搬入されたリサイクル用廃棄物の荷寄せ作業中、バケットを上げたまま後進し左後方へ旋回したところ機体が傾き、被災者が運転席から飛び出た（あるいは飛び出した）ところへ機体が転倒、ヘッドガードの枠に胸部から首を挟まれ、救急搬送されたが同夜に死亡したものの。	150102	10 ～ 29
2011	5	8 ～ 7	被災者は、ダンボール製造設備に供給する原紙を倉庫へ取りに行こうとフォークリフト（最大荷重1.7トン）を空荷状態で運転していたところ、倉庫入口にある鉄骨柱の基礎部（高さ12cm）にフォークリフトの右前輪が接触し、その状態から基礎部の補強材の上を走り抜けたため、フォークリフトの車体が横転し、乗車席から投げ出された被災者はフォークリフトのヘッドガードの下敷きとなり被災したものである。	10602	50 ～ 99
2011	1	15 ～ 16	被災者は、充電を終えたリーチフォークリフトを運転し、工場内の通路をバックで走行していたところ、充電箇所から約15mの通路上でフォークリフトが仰向けに転倒し、ヘッドガードと床に首を挟まれ死亡したものの。	11305	300 ～
2012	11	18 ～ 19	被災者はフォークリフトを運転中、運行経路上に置かれていたローディングランプ（コンテナ車に直接フォークリフトで荷受けするためのスロープ付き架台）のスロープに左前輪部を乗り上げてしまい右方向に横転、運転席から投げ出され、ヘッドガードと地面との間に胸部を挟まれ死亡した。なお、被災者は保護帽を着用していた。	11409	300 ～
2012	1	16 ～ 17	被災者はフォークリフトを使用して事業場の除雪を行っていた（除雪した雪は、駐車場と道路の間にある用水路に捨てていた）ところ、右前輪が傾き運転席から放り出され、その上にフォークリフトが倒れてきて、頭部がフォークリフトの下敷きとなり死亡した。	30301	30 ～ 49
2012	11	12 ～	トラック荷台から重量約1tのフレキシブルコンテナ（フレコン）をフォークリフトで吊り、4段積みされているパレット上に載せたところ、フレコンが建物にもたれかかるように傾いた。これを直そうとフレコンの吊り具にロープを通しフォークリフトの左フォークに掛け、上げたところフォークリフトが左	40301	10 ～

		13	側に転倒し、作業を補助していた被災者（トラックの運転者）が下敷きになった。		29
2012	7	18 ～ 19	圧縮した廃棄物（一辺が約1mの立方体、重量約1 t、「ブロック」と称する）の積み込み作業中、クランプリフト（最大荷重2 t）で挟んだブロックを高さ約3mまで揚げた状態でクランプリフトを右旋回したところ、クランプリフトが横転し、クランプリフトのヘッドガードと地面の間に体をはさまれた（クランプリフト：フォークリフトのフォークをクランプに換装した車両で、積荷を挟んで荷役を行う）。	150103	100 ～ 299
2012	3	8 ～ 9	鋳造工場2階より鋳造屑を搬出するため、フォークリフトでスロープをバック走行していたところ、ガードレールに激突してフォークリフトと共に転倒し、ヘッドガードの下敷きになった。	11102	10 ～ 29
2012	7	13 ～ 14	被災者は結束機で束ねられたパルプ製品（約1 t）を結束機の横に仮置きしようとして、フォークリフト（2.5 t）のクランプではさんだ製品を地上から約2.3mの高さに上げたまま、後方に積まれた別の製品をかわすため、バックしながらS字のように右から左にハンドルを切ったところ、急旋回動作となって車体が転倒し、ヘッドガードと床面の間に腰部をはさまれた。	10601	10 ～ 29
2012	7	8 ～ 9	被災者はフォークリフトに取り付けられた作業台で船体の外板塗装作業を行っていたところ、フォークリフトがバランスを崩して横転、その衝撃で被災者も作業台から投げ出され、地面に体を強打して死亡した。	11501	1～ 9
2012	3	22 ～ 23	被災者がフォークリフト（最大荷重2.2t）を運転し、圧縮した再生固形燃料（縦1.05m、横1.05m、長さ1.05m、重量590kg）を専用のアタッチメントで挟み、高さ約3.4mに持ち上げ後進したところ、フォークリフトが転倒し、運転席天蓋のフレームで胸部をはさまれ胸部圧迫により死亡した。	11709	30 ～ 49
2013	8	2 ～ 3	産廃を焼却炉などで燃焼しやすい塊に加工する事業場での労働災害。被災者は、アームロール式のコンテナ（フックアームを使ってトラック後部に引っ張り上げる方式のコンテナ、片側底面にのみコロボールが付いている）に製品を積み込むため、フォークリフトを使用し後ろ手にコンテナをけん引していたと	150102	30 ～ 49

			ころ、バランスを崩しフォークリフトが横転、下敷きとなった。		
2013	7	8 ～ 9	傾斜部（8度）を走行中のフォークリフトが転倒し、運転者が運転席から投げ出され、ヘッドガード部に胸部を挟まれた。	80109	1～ 9
2013	8	16 ～ 17	最大荷重2トンのフォークリフトで塩ビパイプ管の束10本（重さ12.5kg）を運搬するため、傾斜角8度のコンクリート道路上を前進走行中、フォークに乗せた塩ビパイプ管が道路脇に置いた資材に当たり、バランスを崩したため右にハンドルを切った際フォークリフトが横転し、横転したフォークリフトの下敷きになった。	10901	1～ 9
2013	5	15 ～ 16	トラックからの荷卸し作業を行うため、フォークリフトを移動させ敷地内の通路を走行中、通路の端に寄りすぎたためフォークリフトの車輪が15センチ下の田に落ち、フォークリフトが転倒し、被災者が地面とフォークリフトの間に挟まれた。	11209	10 ～ 29
2013	8	11 ～ 12	アタッチメントを回転クランプに交換したフォークリフトにて、原紙（ダンボールロール状にしたもの）を所定の場所に運搬・仮置きし、次の原紙運搬のために移動する際、右後方旋回したところ、左側後輪が原紙供給器の安全柵として取り付けられたストッパー（高さ27cm）に乗り上げ、フォークリフトが転倒。運転していた被災者は、転倒したフォークリフトの下敷きになり、死亡した。	10602	50 ～ 99
2014	4	17 ～ 18	クランプ式アタッチメントを備えたフォークリフトにて、圧縮された古紙を運搬中、フォークリフトが転倒し、被災者が投げ出された。	10601	30 ～ 49
2014	2	16 ～ 17	工場内にて、古畳を解体するためフォークリフトを用い仮置きしている古畳のはいから、荷卸しして移動中、積荷の古畳が不安定な状態であったために崩れ、付近でフォークリフトの誘導をしていた被災者に荷が激突しそうになり、荷を避けようとした被災者が転倒し頭部を強打した。	11709	10 ～ 29
		10	被災者（外国人技能実習生）は、屋外にて、最大荷重2トンのフォークリフトを用いて、ゴミの片づけ作業を行っていたところ、フォークリフトのタイ		10

2015	6	～	ヤが地面（土）の窪みに落ちて横転した。運転していた被災者は、横転した	170209	～
		11	フォークリフトから投げ出され、フォークリフトと地面の間に挟まれて死亡した。		29
2015	1	～	最大荷重2.1tのフォークリフトを、所定の場所に戻すために走行し旋回	10602	50
		12	させた時に、フォークリフトが転倒し、運転していた被災者が運転席から投		～
		13	げ出され、フォークリフトと地面の間に挟まれたもの。なお、フォークの高		99
		14	さは地面から約1.5m程度の位置まで上昇させた状態で走行していたもの		
			と思われる。		
2015	1	13	被災者は、牛にエサをあたえるため、エサをあたえるための装置を積載した	70101	1～
		～	フォークリフトを運転していた。牛舎出入り口を後進して出て、約10度の		9
		14	勾配の通路途中で右にハンドルを切ったところ、フォークリフトは左側に横		
			転した。被災者は、緊張性気胸により、1月1日午後5時ごろ死亡した。		
2015	2	15	派遣労働者の被災者は、午後3時の休憩後、工場内の作業場所に現れず、事	10103	30
		～	務所付近でドンと大きな音がし、工場敷地内で横倒しとなっていたフォーク		～
		16	リフトのヘッドガードと地面の間に、首から後頭部にかけて挟まれていたと		49
			ころを発見されたもの。		
2015	10	～	被災者は、フォークリフト（最大荷重1.4t）を運転操作中、何らかの原	10805	100
		1	因でフォークリフトが横転し、車体と地面との間に頭部を挟まれ死亡した。		～
		2	当時、フォークリフトの作業装置は地上より約3mの高さにあり、荷は積載		299
			されていなかった。また、路面にはタイヤ跡が残されていた。なお、災害発		
			生時は、休憩時間中にあり、物音を聞いた同僚が、被災者を発見したもの。		
2016	11	～	高台にある資材置き場に停車していたフォークリフトを約1km先にある別	30209	10
		14	の資材置き場に移動させるため、当該フォークリフトを空荷状態で運転し、		～
		15	勾配11度のアスファルト舗装された直線の私道を前進で下っていたとこ		29
			ろ、フォークリフトがバランスを崩して横転し、被災者が投げ出され車体の		
			下敷きとなった。		
		10	フォークリフトを移送するためトラックに積み込む作業中、フォークを3.		1～
			8mの高さに上げ、後進で道板を登っていたフォークリフトがバランスを崩		

2016	7	～ 11	して横転し、道板から転落する際にフォークリフトを運転していた被災者が投げ出され、その下敷きとなった。	80209	9
2016	5	11 ～ 12	工場敷地内の砂利にフォークリフトのタイヤが入り込んで動かなくなったため、貨物自動車を使用しフォークリフト後部をロープで引っ張った際、フォークリフトが転倒し搭乗していた被災者がフォークリフトと地面に挟まれた。	10701	1～ 9
2016	5	8 ～ 9	倉庫内において、フレコンバック（1.0 t）をフォークリフトの爪を利用してつり上げ、トラックに荷積みしていた。トラック運転手は、爪が外れたことを確認せずにトラックを前進させたが、フォークリフトの爪がトラックの荷台上の荷物にかかった状態であったため、荷積み中のフォークリフトが転倒し、フォークリフトの運転手がヘッドレストに挟まれた。	40301	10 ～ 29
2017	9	4 ～ 5	当該事業場の使用する漁港内（屋外）において、被災者がフォークリフト（2.5 t）を運転しトラックの脇を通り抜けた直後、上げてあったフォークリフトのマストの右側が地上約4 mの位置に設置されたパイプラインに接触したため、フォークリフトがバランスを崩し左側へ転倒した。先に投げ出された被災者がフォークリフトのフレームに胸部をはさまれ死亡した。	70201	10 ～ 29
2017	4	14 ～ 15	工場解体現場において、被災者は5階フロアでフォークリフトを運転し外部足場の部材を集積場所まで運搬していた。同フロアで作業を行っていた作業者が休憩に行こうとしたところ、フォークリフトの下敷きになっている被災者を発見した。病院に搬送されたが同日死亡が確認された。	30201	10 ～ 29
2017	4	14 ～ 15	敷地内の作業道の舗装作業を行うため、被災者は舗装に使用するセメントが入ったフレコンバックを、フォークリフトのフォークの片方で吊り下げながら走行していたところ、作業道のくぼみに差し掛かった時にフォークリフトが横転し、被災者は運転席から投げ出されフォークリフトの下敷きとなった。	70101	1～ 9
		10	工場内解体作業中に水道管が破損したために、被災者は同僚男性としめしあわせて、水道管補修作業の足場としてフォークリフトのフォークを使用する		10

2017	4	～ 11	目的でフォークリフトをスロープ（こう配33%）を前進走行で上っていた。スロープ頂上付近でフォークリフトのエンジンが突然停止してフォークリフトが後退を始めたため、被災者はとっさに飛び降りたが、スロープの縁石に激突したフォークリフトが横転し、被災者が下敷きとなった。	30309	～ 29
2017	3	14 ～ 15	被災者が、フォークリフトで、フォークにペットボルトの圧縮品を上げたまま運搬中、後方旋回させたため、バランスを崩し右横転した。被災者は、フォークリフトから投げ出され、フォークリフトの下敷きになり病院に搬送されたが、死亡した。	80109	30 ～ 49
2017	3	16 ～ 17	工事現場で使用した外部足場機材を搬入してきた貨物自動車から、フォークリフトを運転し荷卸しし、所定の保管場所に運搬する途中の同僚作業員の後方を、被災者は荷を積載していないフォークリフトを運転し追走していたが、その途中、被災者はフォークリフトを右旋回させたところ、当該フォークリフトが進行方向左側に横転し、被災者は投げ出され、路面とフォークリフトのヘッドガードのフレーム部分に頸部を挟まれ死亡した。	40302	10 ～ 29
2018	9	16 ～ 17	運転中のフォークリフトが転倒し、頭がい骨骨折を受傷（頭部より出血、詳細不詳）した被災者を事業主の家族が発見したもの。	150102	1～ 9
2018	7	12 ～ 13	廃棄物収集運搬を行う事業場の有価物置場敷地内において、有価物（ラジオ等小型家電）を詰め込んだフレキシブルコンテナバック（重量123kg）の紐をフォークリフトの爪で引っかけて、吊り下げた状態でバック走行により運搬作業中、敷地と公道の出入口部分に傾斜した箇所があり、当該傾斜箇所にフォークリフトがバックで進入したことによりバランスが崩れて公道側に横転し、被災者の頭部が道路とヘッドガードに挟まれた。	150102	10 ～ 29
2018	6	0 ～ 1	製造作業終了後、被災者はフォークリフトを用いて廃材を入れたスクラップ缶を屋外の所定の置き場に運んだ後、置き場より北側の幅6.2mの構内道路で、フォークリフトを旋回させている時、右後輪が側溝（幅20cm、深さ19cm）に脱輪し、フォークリフトが転倒。その際、ヘッドガードのフレーム部分の下敷きとなったもの。なお、被災者は別会社からの出向者。	11502	100 ～ 299

2018	4	4 ～ 5	フォークリフトでプラスチック原料を運搬後、空荷でフォークリフトのマストを高く上げた状態で走行移動中、減速せずに急ハンドルを行った為、フォークリフトが転倒し、負傷した（負傷原因詳細不明）。後日びまん性脳損傷により死亡した。	10805	30 ～ 49
2018	3	16 ～ 17	事業場敷地内の足場用資材置場において、空荷でフォークリフトを走行させていたところ、フォークリフトが横転し、運転していた被災者がフォークリフトの下敷きになった。	30209	1～ 9
2018	2	8 ～ 9	事業場敷地内において、生コンクリート製造工程で排出された砂利を廃棄するため、同砂利の入ったバケットを、フォークリフトのフォークに巻き付けたフック付きワイヤーロープで吊り上げ、フォークリフトのフォークをほぼ最大限まで引き上げた状態で走行していたところ、フォークリフトが横転し、運転席から投げ出された被災者頭部にヘッドガード支柱が激突し死亡したものの。	10901	10 ～ 29
2018	1	12 ～ 13	廃棄する船舶用のアンカーチェーン（約1.6 t）をフォークリフトで保管場所まで運搬中、フォークリフトが横転し、被災者の頭部が地面とフォークリフトのフレームに挟まれ被災した。	11501	100 ～ 299
2019	11	10 ～ 12	被災者は倉庫内に保管されている敷料（厩舎内に敷く草）をフォークリフトを用いて2トントラックに積み込む際、資材掴み用アタッチメント（カスケード）を最大揚程に上げたまま勾配6°の斜面を後進している時にフォークリフトと共に転倒した。転倒後、ヘッドガードの下敷きになり身動きが取れない状態で燃料タンクからガソリンが漏れ被災者に引火したものの。	80209	10 ～ 29
2019	6	8 ～ 10	フォークリフトを運転してパレットの運搬作業中、敷鉄板上を後進していたところ、左後輪が敷鉄板から脱輪した。フォークリフトが左側に傾いたため、被災者は運転席から飛び降りたが、転倒したフォークリフトと地面との間に挟まれ、搬送先の病院にて死亡した。	40301	10 ～ 29
2019	5	14 ～	被災者は、飼料工場内で2.5 tフォークリフトを用いてフレコンバックに入った飼料（500 kg）をサイドクランプの片方の爪で吊って運搬作業をしていた。夕方ごろ、大きな音が響いたため同僚が駆け付けたところ、	11709	1～

		16	フォークリフトが横転し、フォークリフトの後方フレームに胸部を挟まれ下敷きになっている被災者を発見したもの。なお、現場に段差はない。		9
2019	5	14 ～ 16	事業場が所有するフォークリフトが横転し、機体と地面の間に挟まれた状態で倒れていた被災者を事業場に隣接する会社の関係者（取引先）が発見したもの。	150103	1～ 9
2019	1	14 ～ 16	金属やプラスチック等の廃品を回収加工して販売している事業場内で、被災者がフォークリフトを運転していたところ、何らかの理由で傾斜のある路肩に乗り上げて、フォークリフトが横転し、座席から投げ出された被災者がフォークリフトのヘッドガードと地面に頭をはさまれた。	11209	1～ 9
2020	12	12 ～ 14	被災者は、コンクリートブロック（重量：約2 t）をフォークリフトで運搬していたところ、下り坂（勾配約10度）をバックで走行中に法面にフォークリフトが乗り上げて横転したことにより、運転席から投げ出され死亡した。	20201	1～ 9
2020	10	6 ～ 8	事業場内において、被災者は、酸洗するためのコイル状の伸線（約2 t）を、フォークリフトにより運搬中フォークリフトが転倒し、運転席左側から外に放り出された被災者が転倒してきたフォークリフトのヘッドレスト部に頭部を挟まれたもの。	11001	30 ～ 49
2020	9	12 ～ 14	被災者は、フォークリフトを運転しソーラーパネルを設置する架台の運搬作業をしていた。昼休み終了後、降雨により運搬作業を中断し、空荷状態のフォークリフトを駐車場所へ戻すため、傾斜のある作業道（アスファルトの上を泥が覆っている状態）を下っていたところ、斜面でフォークリフトが滑り、バランス崩し横転した。このときフォークリフトに挟まれ死亡したもの。	30209	1～ 9
2020	8	14 ～ 16	製品の原料が積載されたパレット（約600 kg）をトラックの荷台の左側後方に積み込もうとしたところ、トラックがゆっくりと前進を始めたため、トラックの荷台とフォークリフトが接触してフォークリフトが横転し、被災者がフォークリフトの下敷きになったもの。	10899	100 ～ 299

2020	2	<p>敷地内にある資材置場において、被災者はフォークリフトにより足場等の資材を卸した後、荷を積まずフォークを最大に上げた状態で北東方向に直進し、南東方向に旋回したところ、フォークリフトが傾き始め、運転席左側から外に放り出された被災者が、転倒してきたフォークリフトの運転席フレームに頭部を挟まれ死亡したものの。</p>	170209	10 ～ 29
------	---	--	--------	---------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html